

関西学院大学 スカイセミナー
SKY SEMINAR

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY



Vol.42 キリスト教音楽

田
淵
結

関西学院大学文学部 教授

「きよしこのよる」が
 歌う
 クリスマスの世界は？



「きよしこのよる ほしはひかり」。日本でもクリスマスシーズンになると必ず耳にし、あるいは口ずさむこの曲の原詞はドイツ語である。作詞はカトリック司祭であったJ・モル作曲はモールの親友で教師をしていたX・ゲルバー。1818年、オーストリア・オーベンドルフの教会でのクリスマス深夜ミサで歌われた。聖書の描くイエスの誕生のメッセージを巧みに歌うこの曲は、1863年にはニューヨークの牧師ジョン・ヤングによる英訳が公刊される。

日本では1894(明治27)年頃に紹介され、1931(昭和6)年刊の『讚美歌』に初めて登場した。日本語訳は1920年に関西学院高等学校で文学部を卒業した由木康(ゆうき・こう)による。由木は東京・葉独立教会(やがて東中野教会)の牧師を務めながら、日本のプロテスタント教会で歌われる讚美歌研究の第一人者として活躍した。ところで由木が「きよしこのよる」を訳すのに由木は何語の歌詞をベースとしたのか、いや、加えて言えばそれが「訳詞」であるのかどうかも実は明確ではない。

英独詞の最初は「静かな夜、聖なる夜」。由木はその前半を省略し、第二行目に欧文詞にはない「星はひかり」を付加する。この二行目以後、独詞は「すべてが眠るなか、この場所だけが目覚めている。いとしく聖なる夫婦、

巻き毛の愛らしい幼子」、英詞は「すべては静まり、すべては輝く、若き処女である母親と子のまわりは、いとも優しく柔らかな、聖なる幼子」となる。ところが由木訳では「救いのみ子は、み母の胸に」(1954年後段はまぶねのなかに」と改訂)と、まったく原詞にはない表現が続く。

独英詞と由木訳とのもつとも大きなちがいが、それは作(訳)詞者がどこまで自らのイマジネーションを自由にふくらませているかであろう。というのも、独英詞の「優しく柔かな」「巻き毛の幼子」「イエス、こうした視覚的表現は聖書の物語には出てこない。ひょうとしてモルが牧師をした教会に」「巻き毛の幼子イエス」を描いた祭壇画が飾られていたのだろうか。カトリック的な世界では、宗教画、すなわちイメージの世界からも聖書が理解される。それに対して日本人プロテスタント牧師の由木は、夜、星、救い、み母、まぶね、飼葉おけ、寝かせる」と、あくまでも聖書のことばに即して語る。日本語版の「きよしこのよる」、それは原詞の翻訳ではなく、キリスト教的な立場の交替だろう。

JASRAC出051399601501
 なかむつし 関西学院宗教学部 関西学院大学宗教学部
 同大学宗教学部教授(西洋宗教学) 宗教学専攻 聖書学専攻
 関西学院大学文学部 文学部 同大学院神学研究科修士
 課程修士(聖書神学) ロンドン大学キリスト教研究センター
 山教会教師を経て現職(訳書) 現代聖書注解 列伝誌
 上(下) 日本基督教団出版局(注)



西宮上ヶ原キャンパス
 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号
 神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部/高等部/中学部

神戸三田キャンパス(KSC)
 〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地
 総合政策学部 理工学部

「Sky Seminar」のバックナンバーは、<http://www.kwansei.ac.jp/information/sky.html> で御覧になれます。お問い合わせ…TEL:0798-54-6017(広報室)

関西学院大学の一般入試は全国各地で受験できます

2月1日～8日の一般入学試験は、西宮(本学)のほか札幌*、仙台*、東京、静岡*、名古屋、金沢、大阪*、岡山、松江*、広島、高松、松山、北九州、福岡で受験できます(*は2月1日のみ)。詳細は<http://www.kwansei.ac.jp/nyushi>をご覧ください。